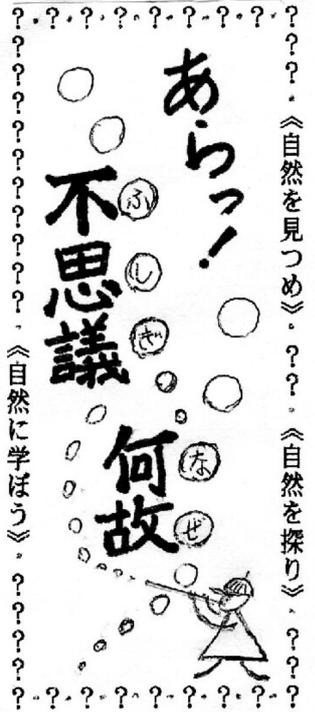


自然談議・科学談議



竹に花が咲くか? (体験談)

5月上旬、いよいよタケノコの季節になった。スーパーにも大きなタケノコが並ぶようになった。これは「モウソウチク」という種類のタケノコらしい。だが、竹に花が咲くのかな?と逆に問い返されたこともある。私は数10年前の昭和30年頃、「見たことがある」と答えると、「本当かな?」と首をかしげられたものだった。だが、これは本当の話である。

我が家の屋敷の西側の一角(およそ100㎡)は竹の山だったのだ。「マダケ」という種類の竹で、太さが5〜6cmあり、それがおよそ100本近く生えていたのである。



竹の花の様子

春になったある時、その竹全体に花が咲いたのである。初めてのことで不思議だな、と眺めていたところ、その花全体が結実し、竹全体が茶褐色様に変わってしまったことを覚えていた。驚いたことに、その数年後、100本近くあった竹が一斉に枯れてしまったのである。今は一本も残っていない。どうやら我が家のマダケに寿命がきたらしいのだ。

NO. 47

文・題字 渋谷 一夫

文献によると、マダケの寿命は約60年とあった。花が咲いて実が成り枯死すると、それが寿命なのだ。我が家のマダケは、明治か大正時代に植えられたものらしい。富士見市内にある竹は、直径が10cm位になるモウソウチクと、太さが4〜5cmのマダケ、太さが3〜4cmのハチクやホテイチクなどである。今、スーパーマーケットなどで売られているタケノコ(竹の子)は、ほとんどモウソウチクらしい。

昔から農家の屋敷内には、竹の林があった。今も残っている家がある竹材が農具や生活利用に利用できたからである。モウソウチクは太いので、ひしやくや茶わん代わりの食器になったし、その皮は、おむすびやお寿司を包む食材に利用できたし、マダケは物干し竿に利用できたし、イネの刈り取り時には、稲束を干す矢来(やらい)というハサキの支え棒にも利用できたし、様々な道具に利用できたのである。子どもの遊び道具としても、竹馬の材料や刀や弓の遊び道具にもなったりと多様化されたのである。



竹林

の朝日新聞の横浜版に「竹の花が咲いた」という記事が載っていたのである。川崎市麻生区のある家庭の庭先に植えられていた数10本の竹が一斉に開花したという珍しいニュースであり、近所の人々が三々五々見学に来ているらしい。この竹は数年後に全部枯死してしまわないか気がかりである。この竹は何という種類か不明だが観察を続けたいものである。この竹の寿命が分かるかもしれない。自然というものは、様々な観点から観察してみると、中々不思議な仕組みがあるものである。今後とも注意して自然を観察していきたい。



竹の子

令和6年5月10日(金)